※　未提出者への督促後に新たに提出（入力）されたレポートも含めた集計結果です

※　以下、各選択肢の右に該当クラス数を記す。（全回答数に対する回答率も附記）

A（問 1～10）：授業担当者として教授技法や授業内容等に関し、教育活動を自己点検し、次の①～④のうち該当する丸数字を選んでください。　①:あてはまる　②:ややあてはまる　③:あまりあてはまらない　④:あてはまらない

設問 1　シラバスに沿って授業を行えた。

①:28（76%）　②:8（22%）　③:1（3%）　④:0（0%）　未回答:0（0%）

設問 2　学生の理解度やレベルを踏まえて授業内容を設定・調整した。

①:27（73%）　②:10（27%）　③:0（0%）　④:0（0%）　未回答:0（0%）

設問 3　話し方、板書の仕方、機器又は器具の使い方、等が適切だった。

（教授技法の適・不適の観点で柔軟に回答してください。）

①:21（57%）　②:16（43%）　③:0（0%）　④:0（0%）　未回答 0（0%）

設問 4　重要ポイントを明示し、分かり易く説明した。

①:15（41%）　②:22（59%）　③:0（0%）　④:0（0%）　未回答:0（0%）

設問 5　学習意欲や知的好奇心・関心を掻き立てたり満足させる教え方ができた。

①:13（35%）　②:20（54%）　③:3（8%）　④:0（0%）　未回答:1（3%）

設問 6　受講生の信頼を得るような授業態度で授業に臨んだ。

（授業を周到に準備し、休講・遅刻を極力控え、進行を妨げる行為（私語など）に対して毅然として実施した。）

①:28（76%）　②:9（24%）　③:0（0%）　④:0（0%）　未回答:0（0%）

設問 7　受講者とのコミュニケーションを図りながら授業を進めた。

（発問への回答を学生に求めた/学生からの質問・発言を促した/学生の理解度を確かめながら進めた/学生の授業への能動的な参加（アクティブ・ラーニング）を促した　等）

①:27（73%）　②:10（27%）　③:0（0%）　④:0（0%）　未回答:0（0%）

設問 8　授業内容に見合った予習・復習或いは発展学習を課した。

①:21（57%）　②:15（41%）　③:0（0%）　④:0（0%）　未回答:1（2%）

設問 9　総合的に判断して学生を満足させる授業が行えた。

①:17（46%）　②:19（51%）　③:1（3%）　④:0（0%）　未回答:0（0%）

設問 10　シラバスに掲げた当初の授業目標（ねらい）は達成された。

①:19（51%）　②:17（46%）　③:1（3%）　④:0（0%）　未回答:0（0%）

B（問 11～15）：FD 活動についてお尋ねします。

設問 11　この授業科目に関してこの 1 年間取り組んだ FD 活動を選んでください。**（複数回答可）**

①他教員の授業参観：　8（22%）

②学内外の FD 講演会等への参加：　33（89%）

③他大学の FD 活動の視察：　16（43%）

④その他：　11（30%）

設問 12　今後取り組もうと考えている FD 活動を選んでください。**（複数回答可）**

①他教員の授業参観：　27（43%）

②学内外の FD 講演会等への参加：　31（84%）

③他大学の FD 活動の視察：　23（62%）

④その他：　13（35%）

設問 13　昨年度も同一科目を担当した方は、前年度の授業評価に基づき、改善した点を書いてください。

該当するクラスのうち、　回答：23 クラス（順不同）

（１）　ペアワークをできるだけ取り入れ、単語チェック、訳出等。

（２）　ペアワーク、グループワークをできるだけ多く取り入れた。

（３）　自宅学習時間を増やすために、WebClass を活用して予習課題を課しました。

（４）　OCEP を通して海外の学生と交流する機会をアシストさせていただきました。TEXT を新しく換え、特にリスニング力がますよう、リスニングパートが始まる数週間前からディクテーション課題を毎回与え、何度も聞くよう促した。

（５）　自宅学習時間を増やすために、WebClass を活用して予習課題を課しました。

（６）　常にリスニング力強化の必要性を伝えた。

（７）　TOEIC よく出る単語を授業中に練習し、次回の授業中に単語テストを行った。

（８）　TOEIC よく出る単語を授業中に練習し、次回の授業中に単語テストを行った。

（９）　TOEIC よく出る単語を授業中に練習し、次回の授業中に単語テストを行った。

（１０）　TOEIC よく出る単語を授業中に練習し、次回の授業中に単語テストを行った。

（１１）　解説の仕方に改良を加えた。

（１２）　テキスト教材が違うので比較は難しいが、今回は英米加豪の 4 種類の方言で読まれている音源を用いて、様々な発音に対応できるよう徹底的な「聴き取り」（とそれに基づくディクテ[書き取り]）を繰り返す授業を行なった。改善ではないが、視点を変えて中級の聴解能力を目指すよう学生を促した。生温い教材では本物の英語に対応できない。

（１３）　留学生を招いて彼らのプレゼンテーションを聞いたり、自由会話を楽しむプログラムが盛り込まれていたが、このプログラムの全工程を学生が担当したが、前期よりもスムーズに行えたと思われる。

（１４）　主に課外で行っている多読のシステムを、基礎教育の予算にて TA を雇用することで、大幅に改善した。後期の間、週 2 回開室し、貸出冊数も昨年のほぼ倍になった。

（１５）　主に課外で行っている多読のシステムを、基礎教育の予算にて TA を雇用することで、大幅に改善した。後期の間、週 2 回開室し、貸出冊数も昨年のほぼ倍になった。

（１６）　会話教材を増やし、スピーキングの練習とスキル向上の機会を増やすよう努めた。

（１７）　昨年に引き続き、前半は英語オンライン協同学習を取り入れた。海外からの参加校が 5 校に増え、それらの教員たちとの調整も、昨年よりスムーズに行うことができた。急な予定変更はなく、学生に対しても予定通り授業を進め

られた。

（１８） 昨年に引き続き英語オンライン協同学習を行ったが、５つの大学の教員と連絡を比較的スムーズにとることができ、予定変更もなく授業を行うことができた。

（１９） 最終課題の提出ミスを防ぐため、授業の初期で同じ方法で課題の提出を行った。

（２０） 最終課題の提出ミスを防ぐため、授業の初期で同じ方法で課題の提出を行った。

（２１） セメスター中に行うすべての小テスト範囲（ALC NetAcademy2）を事前に準備して配布を行った。

（２２） セメスター中に行うすべての小テスト範囲（ALC NetAcademy2）を事前に準備して配布を行った。

（２３） Speaking 課題の文法説明を詳しく行った。

設問 14　自分の授業の評価できる点や反省すべき点、或いは、この FD 活動レポートに関して特記すべき点があれば書いてください。回答：32 クラス（順不同）

（１）講義形式のみにならないよう、生徒たちのアウトプットを促すために毎回ペアワーク及びグループワークをクラス内で取り入れ、積極的に発言できるような機会を設けたつもりだが、生徒からの自発的な意見を得るのはまだまだ難しいと感じた。今後も引き続き生徒たち同士で発言できる機会は設けていきたいと思う。

（２）1 クラスの人数が 30 名近く、あるいはそれを超えてくると、個別の指導はなかなか難しいが、ピア活動を多く取り入れることで、足りない点をカバーできていたと思う。

（３）とにかく英語を話すということに目的を絞って、そのためのトレーニングという形の授業を行った。授業の中でいくつかのタスクを課しながら 1 つのスピーチを完成させ、授業の終わりでできるだけ多くのクラスメンバーと情報交換をする、という授業だったが、最後の情報交換では、全員席を立って自由に話す相手を見つけるよう指示を出したのにも関わらず、いつも同じ相手と話している様子が散見された。この点については、今後の課題とする。

（４）毎回小テストを実施したが、少し学生の負担になったのではと思います。

（５）ペアーで訳出した後、確認のため、日本文を読み、それに当たる文章を学生に音読させた。

（６）今回、ある英語の歌を毎回全員で歌うことにより、大変良い効果があった。

（７）習熟度低位層を過度に意識していたようで、学生から「難易度を上げて欲しい」という意見が出ました。次期に向けての改善点です。

（８）前半 OCEP、後半 TEXT としているので、学生には少し負担になったかもしれません。
リスニング力をあげるためには、やはり毎日少しでも英語に触れる時間を増やす方法を考えます。ライティングについては、添削をして返却していたが、個別に指導するには至らなかったのは今後の課題となるだろう。

（９）音読、パラレルリーディングを毎回することで使える表現を増やそうと試みた。

（１０）ペアワークを多用し、発話する機会を増やした。

（１１）自発的な発言を引き出すよう、授業内の活動やトピックを選んできた。英語での会話に対する恐怖心、恥ずかしさのようなものは少しは取り除けたかとは思うが、授業への参加度という面では、まだまだ消極的な面がみられていたため、その点は教員側の努力がさらに必要だと思った。

（１２）ペアーまたは、グループの練習を増やしました。お互いのコミュニケーション能力とディスカッション能力を高めるように取り組みました。

（１３）ペアーまたは、グループの練習を増やしました。お互いのコミュニケーション能力とディスカッション能力を高めるように取り組みました。

（１４）今年度、技術英語を習得するため、座学だけではなく、アクティブラーニングとしては、Water Rocket を作成し、グランドでコンテストを行った。一連のプロセスはポスターをまとめて、模擬学会形式で発表を行った。

（１５）今年度、技術英語を習得するため、座学だけではなく、アクティブラーニングとしては、Water Rocket を作成し、グランドでコンテストを行った。一連のプロセスはポスターをまとめて、模擬学会形式で発表を行った。

（１６）是認を満足させるのは難しいと実感する。

（１７）４技能、特に発言力にウエイトを置いた授業校生をしており、自宅学習での多読を基に最終的に自分の考えを発表させるところまで、おおむね授業案通り進めることができたと考える。学生は良く勉強したと評価したい。

（１８）４技能、特に発言力にウエイトを置いて授業構成をしており、自宅学習での多読を基に最終的に自分の考えを発表させるところまで、おおむね、授業案通り進めることができたと考える。学生の能動的な授業姿勢を評価したい。

（１９）リスニング・スピーキングを主体とするクラスのため、毎回、口頭演習にウエイトを置く授業構成にする。自宅学習を必須とし、授業で発表の形をとったが、学生の積極的な授業姿勢が見られて良かったと思う。

（２０）リスニング・スピーキング主体のクラスのため、口頭演習にウエイトを置く授業構成にする。自宅学習を必須とし、授業で発表の形をとったが学生の積極的な学習姿勢が見られて良かったと思う。

（２２）多読資料等を貸し出す語学資料室の運営が比較的安定し、その分教室内での授業に集中できるようになった。

（２３）多読資料等を貸し出す語学資料室の運営が比較的安定し、その分教室内での授業に集中できるようになった。

（２４）日本語が母語でない学生がいたが、他の学生と変わりなく授業ができるよう、配慮した。

（２５）英語オンライン協同学習では、英語のライティングを多く行うが、その際の支援（足場架け）には課題が残っているので、改善していきたい。

（２６）英語オンライン協同学習では、英語によるライティング活動が多いが、その支援（足場架け）には課題が残っている。次年度も引き続き改善していきたい。

（２７）ルーブリック評価の検討を行っており、現在は、課題の重要項目を明確化するために提示している。

（２８）ルーブリック評価の検討を行っており、現在は、課題の重要項目を明確化するために提示している。

（２９）小テスト範囲は音声を聴くことのできる ALC NetAcademy2 とし、メインのアクティビティであるプレゼンテーションに使える表現のみを抜粋している。

（３０）小テスト範囲は音声を聴くことのできる ALC NetAcademy2 とし、メインのアクティビティであるプレゼンテーションに使える表現のみを抜粋している。

（３１）語学学習には自律学習が必須である。e-learning を用いて学生一人一人が授業外に自分のペースで行えるような仕組み、そしてパートごとの確認を細かく行った。

（３２）この科目は Speaking 活動中心となっているが、学生が英語のみで話を続けることには難しさを伴う。そのため、３～４人のグループ編成や、練習教材、応用教材への段階的指導、そして一人一人の役割を作る、といった環境づくりに力を注いでいる。

設問 15　FD 活動レポートに関して特記すべき報告があれば添付ファイルで提出してください。

提出ファイル：　なし

C（問 16～18）：中期目標・中期計画のうち「コミュニケーション能力の育成」についてお尋ねします。

設問 16　授業に「コミュニケーション能力の育成」を考慮した内容が含まれていますか？

①はい：　35（95%）　　②いいえ：1（3%）　　未回答：1（3%）

問 16 で「はい」の方は問 17、18 にお答えください。

設問 17　下記のどの点を重視しましたか？（**複数回答可**）

①聞いて理解する：　29（78%）

②読んで理解する：　32（86%）

③自分の考えをまとめて話す：　30（81%）

④自分の考えを文章にまとめる：　26（70%）

⑤討論する：　22（59%）

⑥皆の前でプレゼンテーションする：21（57%）

⑦その他：　1（3%）

設問 18　「コミュニケーション能力の育成」に関して具体的な取り組みがありましたら、記述してください。

回答：　29 クラス（順不同）

（1）テキストの内容が、海外の友だちと手紙のやり取りをする、というものだったので、聞く、読む、書く、（意見を）話す、という 4 技能をバランスよく取り入れることができた。自作の教材だけではなかなかバランスよく取り入れるのは難しいが、良いテキスト、資料があれば、それらを最大限に活用すべきだと思った。

（2）グループディスカッションを行ったのちに、個人スピーチを行うなど、発表を行う前には、ある程度練習をして臨んでもらった。このクラスでは、ほとんどの学生が原稿を見ることなく、全て暗記してスピーチを行うことができていた。

（3）NA2を利用したリスニング課題の実施。音声データが利用できるTEXTを使用することで学生のリスニング力の強化に取り組んだ。Warm up でクラスはじめにペアワーク、グループワークで話す機会を設けた。

（4）多読を実施しており、1ヶ月に一度、グループ内で読んだ本の紹介を実施。授業開始時にペアーで 2, 3 問の質問し会話する。

（5）他人の発表に対して、コメントをもとめた。

（6）グループワークやペアワークを頻繁に行いました。

（7）OCEP 授業を通じて、海外の学生と意見交換をし、異文化に触れたり、意見交換をするなど、コミュニケーションの場があった。

（8）グループワークやペアワークを頻繁に行いました。

（9）NA2を利用したリスニング課題の実施。音声データが利用できるTEXTを使用することで学生のリスニング力の強化に取り組んだ。Warm up でクラスはじめにペアワーク、グループワークで話す機会を設けた。

（10）日常的なこと、授業のテーマにちなんだこと、人の話を聞いて自分の意見をいうこと、など、口頭表現に注力した授業を行った。毎回の授業で自分の考えを述べる際、モデル文を提示し、どのように話すと分かりやすいか、を実際に内容を暗記することで学んでもらった。暗記の際には、逐次通訳のような形で耳で日本語を聞き、英語で話すという活動を取り入れた。

（11）ペアーまたは、グループの練習を増やしました。お互いのコミュニケーション能力とディスカッション能力を高めるように取り組みました。

（12）ペアーまたは、グループの練習を増やしました。お互いのコミュニケーション能力とディスカッション能力を高めるように取り組みました。

（13） 学生が実際に英語を使えるように、アメリカからの留学生 2 人は TA として、授業に参加してもらいました。

（14） 学生が実際に英語を使えるように、アメリカからの留学生 2 人は TA として、授業に参加してもらいました。
また、外部よりネイティブの先生を 1 回参加していただき、チームティーチングを行った。

（15） アクティブラーニングの Water Rocket を作成及びコンテストを行うため、コミュニケーション能力はかなり求められている。

（16） アクティブラーニングの Water Rocket を作成及びコンテストを行うため、コミュニケーション能力はかなり求められている。

（17） 上記の通りだが、以下再記する。テキスト教材が違うので比較は難しいが、今回は英米加豪の 4 種類の方言で読まれている音源を用いて、様々な発音に対応できるよう徹底的な「聴き取り」（とそれに基づくディクテ[書き取り]）を繰り返す授業を行なった。改善ではないが、視点を変えて中級の聴解能力を目指すよう学生を促した。生温い教材では本物の英語に対応できない。

（18） 留学生を授業に招き、プレゼンテーション、自由会話を通し、学生の英語に対する興味、海外に対する興味喚起に大きな効果があったと思われる。

（19） 多読活動で読んだ英語の本について、簡潔に分かりやすく要点を説明し、お互いにコメントをする取組を行った。

（20） 多読活動で読んだ英語の本について、簡潔に分かりやすく要点を説明し、お互いにコメントをする取組を行った。

（21） 農学に関わる様々な事物について話し、相手に伝える活動を行った。

（22） 海外の 5 つの大学と環境による英語によるオンライン協同学習を行う活動を行った。主に書き言葉だが、一部、ビデオ通信でのやり取りも行った。

（23） 英語オンライン協同学習を、海外の5つの大学と共同で行った。その中で、学生たちが、自己表現を行う機会を多数設けた。

（24） Reading Project では、聞き手の立場を考えて記事選び、原稿作成、発表するよう指導している。各クラスメイトの発表に対しては、コメントを書き本人に渡し、再度コメント返しをすることで更に意見交換できる場を設けている。

（25） Reading Project では、聞き手の立場を考えて記事選び、原稿作成、発表するよう指導している。各クラスメイトの発表に対しては、コメントを書き本人に渡し、再度コメント返しをすることで更に意見交換できる場を設けている。

（26） On-campus Exchange Program では、留学生との交流の機会を設けている。教室に異文化空間を作り、英語学習への意欲を高める試みを行っている。

（27） On-campus Exchange Program では、留学生との交流の機会を設けている。教室に異文化空間を作り、英語学習への意欲を高める試みを行っている。

（28） Reading Project を用いて、関心のある記事を読み、クラスで伝える試みを行った。その後、コメントシートでの交流を行った。

（29） セメスター中に4つの大きなトピックを設け、毎時決められたトピックに関する意見交換を行う活動を実施している。

D（問 19～22）：中期目標・中期計画のうち「地域を教材とする基礎教育/共通教育プログラム」についてお尋ねします。

設問 19　授業に「地域（宮崎）を教材とする」内容が含まれていますか？

①はい：　10（27%）　　②いいえ：21（57%）　　未回答：　6（16%）

問 19 で「はい」の方は問 20～22 にお答えください。

設問 20　その内容を授業に取り上げるおよその回数を選んでください。

①１～５回：　8（80%）　　②６～10 回：　2（20%）　　③11～15 回：　0（0%）

未回答：　0（0%）

設問 21　「地域」のどのような分野を取り上げていますか？（**複数回答可**）

①歴史・文化：　8（22%）　②政治・経済・産業：　3（8%）　③自然環境・フィールド体験：　6（16%）

④その他：3（8%）

設問 22　「地域を教材とした基礎教育/共通教育プログラム」に該当する特色ある活動がありましたら、記述してください。

回答：　8 クラス

（１）海外の病院、疾病時の治療などの状況を、宮崎の医療サービス、病院等と比較し、それについて海外の友だちに紹介する形で述べていくというタスクを何回か取り入れた。

（２）地元のローカルフード、大都市ではなく宮崎に住む理由、というテーマを取り上げた際に、地域の内容について各自意見を述べる機会を与えた。全員が宮崎出身ではないため、学生同士、興味深く発表を聞く様子がうかがえた。

（３）グループ内で、それぞれの地元について紹介する。

（４）グループ内で地元の紹介。

（５）OCEP を通して、地元の食品、観光地、歴史などを紹介した。

（６）地元の紹介。

（７）英語によるオンライン協同学習で、自分達の地域の課題を示し、お互いにその解決についてやり取りをしたり、文化や大学での学びの紹介を行っている。

（８）英語オンライン協同学習を、海外の５つの大学と共同で行った。その中で、学生たちが、自分達の地域の課題を提示し、参加者と議論したり、文化や自然について紹介する機会を設けた。